

小学生向け食農体験講座：稲作と芋掘りを中心に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡大学教育学部 公開日: 2013-04-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤井, 道彦 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/7204

小学生向け食農体験講座

－稲作と芋掘りを中心に－

技術教育講座 藤井道彦

はじめに

近年、食の安全・安心が注目され、食に対する関心が高まっている。学校教育の中においても食育の推進が重要視されている。しかし、現在、学校教育において実践されている食育の多くは、「食」のみに重点を置いて扱ったものが多く、「食」の前提となる「農」についての体験をふまえた「食農体験」としての観点に欠けことが多いように思われる。

しかし、作物の栽培に必要な労力や時間が必要であり、また、栽培に要する場所を考えると、教育現場だけで多様な食農体験を行うことは困難なことが多いと思われる。その改善策のひとつとして、大学との連携があり、大学が関わることにより、教育現場のみでは実践することが容易ではない食農体験や、子どもたちに興味をもたせることができる、より深い内容についても扱うことができるものと期待される。

また、教育現場と大学とが連携することの中で、大学生が食農体験講座に補助として、目的意識をもって子どもたちと関わることにより、教育学部において将来教員を目指している大学生にとって、教員採用においても、また、将来教員として採用されて実際に子どもに教える立場になった際においても、大変貴重な体験をすることのできる機会であると考えられる。

1. 食農体験講座の実践

昨年に引き続き、大学近くにある静岡市立大谷小学校 3 年生 67 名を対象に、総合的な学習の時間を利用させていただき、食農体験講座を行った。食農体験講座は、子どもたちに大学まで来てもらい、静岡大学教育学部自然観察実習地において各回約 2 時間行い、長期休暇の期間を除き、約 1 ヶ月に 1～2 回の割合で、6 月から 2 月にかけて、以下の内容で計 9 回の実践を行った。

本年度も、食農体験講座を前期から開始することができ、イネは田植えから、サツマイモは蔓の移植からと、子どもたちに自分達で最初から栽培したものを収穫し、試食する体験をしてもらうことができた。

- ・実施日時：第 1 回 6 月 3 日（金）田植え
- 第 2 回 6 月 23 日（木）サツマイモの蔓の定植
- 第 3 回 10 月 4 日（火）野菜苗の畑への定植
- 第 4 回 10 月 21 日（金）稲刈り
- 第 5 回 11 月 14 日（月）サツマイモの芋掘り、野菜の収穫
- 第 6 回 12 月 6 日（金）サツマイモの試食、野菜の収穫
- 第 7 回 1 月 13 日（金）稲刈り後の作業、野菜の収穫
- 第 8 回 1 月 27 日（金）わら縄作り、野菜の収穫
- 第 9 回 2 月 20 日（月）餅つき
- ・参加人数：小学 3 年生 67 名
- ・活動場所：静岡大学教育学部自然観察実習地

食農体験講座全体としては、イネとサツマイモ以外に、野菜として、ダイコン・コカブ・ハクサイ・キョウナ・ブロッコリーの栽培・試食についても行ったが、ここでは田植えから稲刈り・もちつき・試食まで行った稲作と、蔓の定植から芋掘り・試食まで行ったサツマイモについての食農体験を中心に紹介する。

前期には田植え（図 1）とサツマイモの定植（図 2）の体験を行った。後期には、稲刈り

(図 3) とサツマイモの芋掘り (図 4) の体験を行い、稲作では脱穀・粃すり・精米といった稲刈り後の作業とわら縄編みの体験を行った後、餅つき (図 5) を行って、自分たちの育てたもち米を用いて自分たちでついた餅を試食した。サツマイモでは、紫芋も含めて 4 品種のサツマイモの茎や葉、掘った芋の色や形などを比較してもらい、収穫した芋は品種ごとにゆで、4 種類のイモの味や色などを比較してもらった。

それぞれの食農体験においては、希望する大学生に子どもの体験補助をしてもらった。食農体験講座の様子を以下に示す。



図 1 田植えの様子



図 2 サツマイモの蔓の定植



図 3 稲刈りの様子



図 4 芋掘りの様子



図 5 餅つきの様子

体験後の子どもの感想から、「食べ物の大切さが分かりました」「わらなわはむずかしかったけど、楽しかったです」「農家の人のたいへんさが分かりました」「昔の人がやっていることを体験できて楽しかったです」「お米は、昔の人がたいへんな思いをして作った大事な食べ物ということが分かりました」「昔の人はわらもむだにしていないことがわかりました」「昔の人たちがこんなにちえをふくらませておいしい食ざいを作るためにくふうしてくれただから、いまの食ざいがあるんだなと思いました」など、「食」を得るための大変さや昔の人の工夫に気付くとともに、自分たち自身で作ったものに対して喜びを感じているようであった。

2. まとめ

食農体験講座を通して、子どもたちが大変意欲的に興味をもって体験に取り組み、また、体験を通してさまざまな発見をしている様子がみられ、体験を通した食育の重要性が認められた。また、子どもたちの感想からも、食を得るための大変さに気付き、また、自分たちで作った「食」に対して、大変満足しているようであった。また、食農体験を通した感想や発見は、最終回の全体についての感想にも詳しく書かれており、体験を通して身につけたことは、時間が経過してもはっきりと記憶しているようであった。食農体験講座の補助をしてくれた学生も、子どもたちの姿や反応に多くの発見をし、教員になるにあたっての貴重な体験となったようである。

今後も、食農体験の教材化について、さらに検討していく予定である。